



行政書士 MAP

第 26 回

登録 60 周年 福岡の発展とともに歩んだ行政書士

福岡県行政書士会

広報部発行

行政書士は扱う業務が幅広い仕事。そのため一人ひとりの得意分野や仕事の流儀、人生の背景も実に多様です。「行政書士 MAP」では、福岡県行政書士会の会員の中から、話題の行政書士や様々な活動を行う行政書士を紹介していきます。

第 26 回は、福岡市早良区「行政書士 津田事務所」の津田道雄会員を訪ねました。行政書士登録 60 年を迎えられた津田会員に、福岡の都市化とともに歩んだ行政書士人生と、仕事への思いについて伺いました。



広報部(以下、「広」): 本日は取材に応じいただきありがとうございます。最初に、所属支部、登録年次を教えてくださいませんか。

津田会員(以下、「津」): まずは、この度の「令和8年 熊本地震」に際しまして、謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災された方々の一日も早いご回復と、被災地の復旧・復興を心より祈念いたします。お尋ねの件ですが、私は西福岡支部に所属しており、昭和 40(1965)年 1 月 22 日に登録しました。行政書士登録 60 年を迎え、今年の福岡県行政書士会の定時総会で表彰していただきました。

広: 行政書士を登録されて 60 年、心から尊敬いたします。行政書士を志されたきっかけと取扱業務などからお話いただけますか。



津: 学校卒業後、土地家屋調査士事務所に勤務したことがきっかけです。当時の福岡市西部では宅地開発が盛んに行われており、測量や土地に関するさまざまな実務を経験しました。その中で行政書士資格を取得し、約8年間、勤務した後に独立しました。当時は高度経済成長の真っただ中で、福岡市も急速に都市化が進んでいました。現在では住宅地や商業地となっている場所も、その頃は一面に農地が広がっていました。私が行政書士として数多く携わったのは、そうした農地を宅地へと転用するための農業委員会への申請手続き、いわゆる農地転用業務でした。

広: 福岡の街づくりとともに歩んでこられたんですね。



津: そうですね。都市が発展していく過程を行政書士として間近で見ることができました。農地転用から始まり、その後は都市計画制度の整備とともに開発許可業務へと仕事の中心が移っていきました。時代が変われば制度も変わります。そのたびに新しい知識を身につけながら、一つひとつの案件に向き合ってきました。

広: 登録された頃、同期の行政書士の皆さんは、どのような業務を中心にされていたのでしょうか。

津: やはり時代的にも都市化が進んでおりましたので、多くの先生方が農地転用や開発業務を中心にされておりましたね。土地関係の手続きは行政書士の中でもメイン業務の一つでした。現在は、行政書士の業務範囲も大きく広がり、取り扱う業務も当時とは大きく様変わりしましたね。

広: 開発許可業務には多くの専門家との連携が欠かせないですね。

津: そうですね。開発許可業務は、単に建物を建てるための手続きというだけではありません。

その土地の利用計画や周辺環境との調和、道路や排水などのインフラ整備も含め、街づくり全体に関わる重要な仕事です。測量は土地家屋調査士、登記は司法書士、それぞれの専門家が力を合わせて初めて一つの業務が完成します。

そのため、私たちの事務所では土地家屋調査士・司法書士・行政書士による総合事務所として業務を行っています。





広: 総合事務所には何名の職員がおられるのでしょうか。

津: 現在、19名の職員が在籍しております。総合事務所として業務を行う以上、多くの専門スタッフの力が欠かせません。一人では対応が難しい案件でも、それぞれの専門性を生かしながら職員同士が連携し、依頼者の皆様に安心してご相談いただける環境づくりに努めています。

広: 現在のお客様は、不動産会社からのご依頼が中心なののでしょうか。



津: そうですね。現在は住宅会社、いわゆるデベロッパーからのご依頼がほとんどです。県内外の大手企業をはじめ、多くの企業から継続してご依頼をいただいております、本当にありがたいことだと感じています。

広: これまでどのような形でお仕事を広げてこられたのか教えていただけますか。

津: 特別な営業をしたという記憶はありません。私が何よりも大切にしてきたのは、「人との出会い」です。一つひとつのご縁を大切に、目の前のお客様の期待に応えることだけを考えて仕事をしてきました。そうすると、「またお願いしたい」「知り合いを紹介したい」と言ってもらえるようになりました。その積み重ねが、次の仕事へとつながっていったのだと思います。

広: 60年間、第一線で行政書士業を続けてこられた津田会員ですが、仕事をする上で最も大切にされてきたことは何でしょうか。

津: やはり「信用」です。行政書士の仕事は、お客様から大切な手続きを任せていただく仕事です。だからこそ、「この人なら安心して任せられる」と思っていただけることが何よりも大切だと考えています。そのためには、正確であることはもちろん、迅速に対応することも重要で、職員には他が1ヵ月かかる仕事をうちは20日くらいで仕上げるようにとっています。一つひとつの手続きを丁寧に行いながら、お客様をできるだけお待たせしない。それも信頼につながる大切な姿勢だと思っています。

広: 話題が変わりますが、先生は休日をどのように過ごされていますか。リフレッシュ方法なども教えてください。





津: 休日は地元の自治会活動に参加することが多いですね。地域の皆さんとの交流は、私にとって大切な時間です。体を動かすことも好きなので、仲間と一緒にグラウンドゴルフを楽しみ、気分転換をしています。

また、これまで消防団をはじめ、地域のさまざまな役職を務めさせていただきました。ライオンズクラブでは会長を務めた経験もあります。地域とのつながりは、行政書士として仕事をする上でも大切なことだと感じています。

現在は、私の事務所の職員が早良消防団の団長を務めており、地域のために活動を続けています。そうした姿を見ると、とてもうれしく思います。

広: 最後に、行政書士として日々活躍されている若い会員の皆さんへ、メッセージをお願いします。

津: 私が大げさなことを言える立場ではありませんが、一番大切なのは「信用される人間性を築くこと」だと思います。

知識や経験はもちろん大切ですが、それ以上に、お客様一人ひとりと真摯に向き合い、誠実に仕事を積み重ねることが何より重要です。私自身も 60 年間、その積み重ねを大切にして仕事を続けてきました。

お客様としっかりお会いし、お話を伺い、一つひとつの仕事を丁寧に行う。その姿勢が信頼につながり、新たなご縁を生んでくれるのだと思います。

時代は変わり、行政書士を取り巻く環境も大きく変化しています。しかし、「信用を大切にする」という基本は、これからも変わることはありません。若い先生方には、一つひとつの仕事を大切に、自分自身の信用を築きながら歩いてほしいと思います。



～行政書士プロフィール～

津田 道雄(つだ みちお)

登録年月日: 昭和 40(1965)年 1 月 22 日

事務所所在地: 福岡市早良区祖原 14 番 9 号

この記事は令和 8 年 9 月 1 日の情報です